

福島の子ども保養プロジェクト活動

9年レポート 2020年度



2020.7.4 [こくみん共済 coop プレゼンツ]



福島県生活協同組合連合会
福島県ユニセフ協会 福島大学地域環境論研究室

コヨット! とは



「コヨット!」とは、子ども保養プロジェクトの
こどもの目 ほよの目 プロジェクトの目
保養に「来よう!」と誘う意味も含まれています。

目的

福島の子ども保養プロジェクト(愛称:コヨット!)は、東京電力福島第一原子力発電所の事故による被災地の子どもたちや保護者をケアする具体的な取り組みとして実施してきました。放射能によるさまざまな制約がある日常生活から離れてのびのびと過ごすことで、ストレスを解消したり、他の家族やスタッフと触れ合うことで安心感を得たりすることが、親子関係の安定につながることに大きな意味があります。発災後満11年目に入り、住宅地や通学路などの除染も進み、空間線量は低下してきています。また、内部被ばくは食べ物でコントロールできることもわかってきましたが、子育て家庭の不安は解消されているわけではありません。

避難指示解除や住宅無償提供の打ち切りにより帰還せざるを得ない親子への寄り添い活動も重要になってきます。これまでの10年間の活動で得た教訓を生かして取り組んでいきたいと考えております。

私たちは、今後のコヨット!の活動は、子どもの心と成長、保護者特にお母さんの心身のケアを重点的に取り組み、一日でも早い被災の終わりを被災当事者が実感できるよう努めていくことに考えています。

県内と県外の2つのコースに

コヨット!では、これまで、子どもの年齢や目的に合わせて、①週末保養企画 ②就学児週末保養企画 ③県外受入れ保養企画 ④「こども遊び塾」週末保養コースの4つのコースを設定してきましたが、実施してから10年目となることから、以下の2つのコースとしました。

昨年より、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、企画し募集しては中止という状況が続いており、ご迷惑をおかけしておりますが、何よりも参加者の感染しない、感染させないための対策が重要と取り組んでいます。ご理解をよろしくお願いします。

① 県内保養企画

これまでは、就学前(0歳～小学入学前)から中学生の子どもたちを中心に保養しておりましたが、これからは、発災時、最も制約された中で育った子どもたちを中心としながら、福島県内中心の保養先にお連れし、様々な外遊びや体験などを通じた家族のリラックスタイムを支援します。

② 県外受入れ保養企画

全国の受け入れ団体が企画した保養プログラム。小学生以上中学生未満の子どもたちを対象に(参加可能な年齢は各企画による)、長期の休み期間中に実施。各地で工夫された体験型の企画が満載。

プロジェクト実施状況

(2011年5月9日～2021年3月31日)

(累計企画数:1,843企画 参加数延べ:86,382人)

『週末・県外受入れ保養企画』(2020年4月1日～2021年3月31日)

2020年度 実施状況

① 週末保養企画 16回 参加人数: 345人
② 県外受入れ保養企画 1回 参加人数: 21人
※受入団体名等については13ページ参照

主な費用

事前打ち合わせ費、参加者およびスタッフの宿泊費、バス借り上げ代、旅行保険費、通信費、会議費、広告費、等。

実施期間

週末保養企画 : ほぼ毎週末 1泊2日
就学児週末保養企画: ほぼ毎月1回 1泊2日
県外受入れ保養企画: 通年 1泊2日～1週間程度



週末保養企画/オランダせんべい工場見学



週末保養企画/とうもろこし巨大迷路



週末保養企画/山形県産業科学館



週末保養企画/陶芸体験



週末保養企画/クリスマス会



週末保養企画/クリスマスケーキづくり体験

2011.12.1～2021.3.31まで 合計企画数:692企画 参加数延べ:23,468人

① 週末保養企画 : 455企画 参加数:14,867人 (うち平日企画:6企画 参加数:104人)
② 就学児週末保養企画: 56企画 参加数:3,708人
③ 県外受入れ保養企画:181企画 参加数:4,893人

『おもいっきり!そとあそび』コース(2015年度で終了)

対象

環境放射線量が高い福島県中通りの保育園・幼稚園の園児

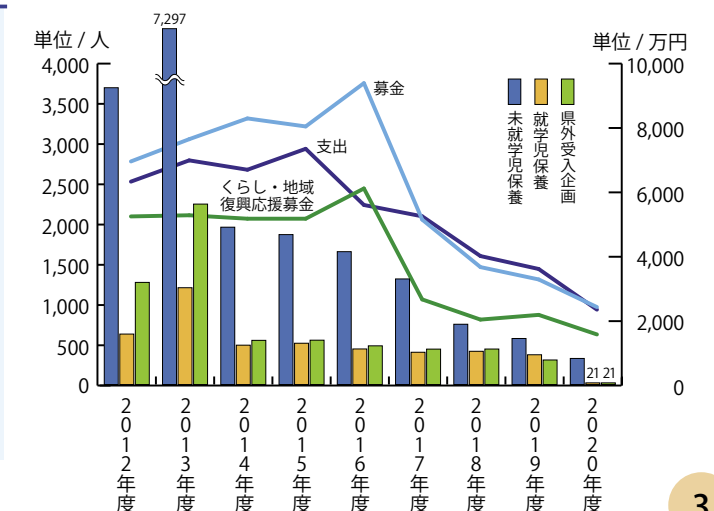
実施団体

主催:福島県ユニセフ協会/福島県生協連
共催:福島交通株式会社 福島交通観光株式会社

実施状況

期 間:2011年5月9日～2016年3月31日
企画数:1,151企画
参加人数:62,914名(延べ人数)

コヨット!年度別実績&募金・支出推移表



プロジェクト運営体制



週末保養企画/りんご狩り体験 (山形県上山市内)

新型コロナウイルス感染症パンデミックの中での「コヨット！」活動

新型コロナウイルス感染症がパンデミックになって丸2年。今なお終息していません。

2020年度は、少し窮屈ではありましたが、感染しない、感染させないための対策を十分とった上で、実施してまいりました。

しかし、感染拡大の影響を受け、規模縮小は元より、中止を余儀なくされた結果、2021年3月31日現在、週末企画15企画324名、前年同期では18企画503名でした。こども遊び塾1企画21名、前年同期では3企画69名でした。県外受入1企画21名、前年同期12企画305名でした。週末小学生0企画、前年同期では6企画370名でした。

合計しても17企画366名となっており、前年同期で、企画数では、前年の43.6%・22企画減、参加延べ数では、前年の29.4%・881名減という状況となりました。

2021年になってからも感染拡大は続き、緊急事態宣言も10都府県では3月7日まで延長され、福島県も2月14日まで、病床の使用率や新規感染者の前週比の項目など深刻な状況にあり、「コヨット！」は休止しておりましたが、ようやく緊急対策が終了し、活動を再開した途端、またもや第3波、第4波が襲い、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の発出、非常事態宣言などが出され、企画し募集しては中止の連続と落ち着いた日々が続いております。

さて、「コヨット！」の活動は、当初は福島県生協連が事務局を担っています福島県ユニセフ協会が日本ユニセフ協会の協力と世界から集まった東日本大震災緊急募金を原資に取り組みました。

その後、日本生協連を通じた「くらし応援募金」により、全国の生協からたくさんの募金をお寄せいただくことになり、「くらし・地域復興応援募金」と名を変えてからも募金をお寄せいただき、2020年3月をもって終了となりましたが、その後も募金をお寄せいただく団体もごございます。

日本生協連と「コヨット！」をいつまで続けるかと

いう意見を交わす中で、2021年3月31日で、つまり震災から10年という節目で、いったん目途をつけることにしました。

しかしながら、皆様ご承知の通り、コロナ禍で企画が思うように進まず、資金が残っていることもあって、2021年3月31日で、これまで4つのコースで行ってきた企画のうち、「就学時週末保養企画」と「子ども遊び塾週末保養企画」を終了し、「県内週末保養企画」に一本化し、「県外受入保養企画」の2コースとし、取り敢えず、「コヨット！」の活動を2022年3月31日まで1年延長して取り組むことで、計画しました。

募金のいずれもその目的が「コヨット！」の活動に使用」と明確になっていて、そう呼び掛けていただいている以上、「コヨット！」以外の活動に転用することができませんから、資金が続く限りは、活動を継続していく覚悟です。

なかなか思うようにならない困難な状況がしばらく続きそうですが、蓄積されたつながりを励みに、気持ちをあらたにしてこれからの活動を行いたいと思っています。

引き続き「コヨット！」活動を支えていただけると幸いです。

発災当時は、屋外活動が制限されており、子どもたちは人工の屋内遊び場で遊ぶしかなく、私たちは、少しでも自然の中で、屋外で遊ばせたいとの願いを持っていたので、放射線量を測りながら、低線量で安全な屋外の遊び場を見つけて、活動のフィールドとしてきました。そんなわけで「県外受入企画」を全国の生協にお願いしてきた経過にあります。

そうした中で、日本ユニセフ協会が支援していた「日本冒険遊び場づくり協会」を知ることになり、講師を招き「プレイリーダー研修」をスタッフ一同で受講しました。

研修では、屋外活動の制限が、子どもの脳の発達にも少なからぬ影響を与えているということを学びました。

人間が生命を存続させるため、自分の身を守るための自律神経系・免疫系・内分泌系をコントロールする機能がある大脳辺縁系は、幼児期に成長すると言われ、屋外で遊ぶことにより、自然から受ける刺激で、より成長が高まるとも言われています。この部分が成長するのは9歳までだということが科学的にもわかっているということでした。

従って、震災の年に生まれた子どもが、満10歳の誕生日を迎える2021年3月までは、少なくとも福島の子ども保養プロジェクトを継続させ、福島の子どもたちの健全な成長を促してあげることが、国策で進められたとはいえ、結果として原発を容認し、過酷な事故へとつないでしまった私たち大人の最低限果たさなければならない責務であると考えました。

このことが、10年でひとまず活動を終了するという理由のひとつになりました。

その後は、そのようにお話し上げながら、ご協力・ご支援を仰いできました。

被災者の支援ニーズはどうなのかということですが、2021年3月31日で終了するということを参加者には、お話し上げて、この間活動を進めてきましたので、皆さんご承知なのですが、2021年以降もできればもっと継続して欲しいという希望をたくさん聞いてきていますので、ニーズはまだまだあるのではないかと考えています。

支援ニーズがいつまで続くのかは、私たちにはわかりかねます。

それは、被災の終わりは、国や行政や支援している私たちが決めることではなく、被災当事者が決めることだからです。

そこには、放射能の問題が重く立ちはだかっています。

放射能については、一人一人捉え方が異なります。

原発災害から10年も経ちますので、なかなか口にはしません。

というよりも口にするれば争いになるので、それを避けたいというのが本音なのかも知れません。



私たちは、この10年余りの「福島の子ども保養プロジェクト」「コヨット！」を通して、多くの子もたちとその保護者に寄り添ってきました。

そうした中で、最も注意を払ってきたことは、ひとりひとりの考えや立場を尊重し、決して否定しないこと。いろいろな考え方、多様性を認めあうということでした。

「コヨット！」の原点は、子育てを「保護者だけにまかせずに社会で行う」という強い気持ちでした。

また、不安に思う保護者に寄り添うということも大切にしてきました。

全国の生協から、多種多様な「濃密なつながり」を作ってください、たくさんの支援をいただきました。

保養に参加した保護者も子どもたちもそうしたつながりを強く感じていると思っています。

10年が経過していますので、震災当時、最も屋外活動が制限された中で育った子どもたちも高校生や大学生になっています。

「コヨット！」で育った子どもたちが、今度は、自分たちの弟や妹たちの世代をサポートしていく、こうして幾世代にもわたって、つながっていく。

そうした環境づくりが、この間の「コヨット！」の活動でできてきたのではと思っています。

どのように活動を継承していけば良いか?「コヨット！」で育った子どもたちの想いや保護者の想いを感じる中で、また出来上がってきた環境づくりの中で、自ずと見えてきてはいますが、私たちだけで決めることではないし、また決めるべきではないと考えており、「コヨット！」の参加者、被災当事者やスタッフ、ご支援いただいている皆さんと話し合いながら、決めていくことになるかと思っています。

こくみん共済COOP プレゼンツ「森の音楽会」

7月4日(土)、磐梯名湯リゾート「ボナリの森」にて、こくみん共済 COOP 福島推進本部が進める協同組合間協同(防災・減災)への活動「東日本大震災からの復興支援の取り組み」として、福島県生協連と連携し、「福島の子ども保養プロジェクト(コヨット!)」の行事「森の音楽会」を開催しました。

コロナ禍の中、例年よりも参加者を限定し、マスク着用や体調管理、手指消毒の徹底、3密を避けて距離を保つ、動物形のかわいいフェースシールドをつけるなど、少し窮屈ではありましたが、参加者一同、楽しいひとときを過ごしました。

主催者の挨拶



こくみん共済COOP福島推進本部長 今泉 裕氏

当日は、藤野恵美さん(ピアノ) & 柴田晶子さん(口笛) & 牧野裕美さん(ファゴット) トリオによる演奏が披露されました。



コヨット! ほっこりママ会【心のケア】



日本プレイセラピー協会
本田 涼子 氏

2013年に「保養参加者交流会」として始まった「コヨット!ほっこりママ会」も今年9年目を迎えました。今年度はコロナウイルス感染拡大の影響を受ける中、必要としているお母さんたちの心のケアを2回開催しました。拡大前にソーシャルディスタンスをとり1回開催。2回目には講師の先生とオンラインで開催することができました。

久しぶりに画面を通してお母さんたちの子育ての悩み、子どもや家族との関わり方の相談や悩みが増加



していることがわかりました。「コヨット!ほっこりママ会」で集まることがお母さんたちの大きな支えになっていることを実感しました。

ほっこりママ会本田よう一のレシピ集



料理研究家
本田 よう一 氏

ほっこりママ会料理教室がコロナ禍の中、対面での料理教室を実施出来なくなりました。そこで家でもかんたんにできるレシピを作り、ホームページ上に掲載しました。



シンプル青菜炒め

《材料》(4人前)

小松菜……200g
豆苗………1袋

A [ごま油…大さじ2
にんにく…1片(みじん切り)
赤唐辛子…1本
(2等分におり種を取り除く)
塩…小さじ1/4

B [鶏ガラスープの素…小さじ1
水、酒…各大さじ1

《作り方》

- 1.小松菜は根元を切り、4cm長さに切る。豆苗は根元を切る。
- 2.フライパンにAを入れて、香りがでたら、1を入れて全体を油でからめて、ふたをして、1分ほど蒸し炒めにする。Bを加えてさっと炒める。

《ポイント》

冷え防止ににんにくと赤唐辛子を加えて体をあたためて。



かぼちゃのねぎザーサイ蒸し

《材料》(4人前)

かぼちゃ…1/4個(600g正味400g)
ねぎ(白い部分)…1本
味付きザーサイ…50g(桃屋)
ごま油………大さじ1
塩…小さじ1/4 水…大さじ4
白いりごま…大さじ1/2

《作り方》

- 1.かぼちゃは種とワタを取り除き、くし形に切る。ねぎは斜め切りにする。ザーサイは粗みじん切りにする。
- 2.フライパンにごま油を入れてかぼちゃを入れて、塩ふり、水を加える。ねぎ、ザーサイの順に乗せて、ふたをして、5分ほど強めの中火で蒸し焼きにし、5分ほど休ませる。
- 3.器に盛り付けて、ねぎとザーサイを乗せる。ごまを散らす。

《ポイント》

かぼちゃとねぎは体を温める食材。生野菜よりも加熱した野菜を多めにとることで冷え防止に。



カリカリチーズのおつまみれんこん

《材料》(作りやすい分量)

ピザ用チーズ…100g
れんこん………1/2節(50g)
みじん切りのパセリ…少々

《作り方》

- 1.れんこんは薄切りにする。水にさらして、水けをきる。
- 2.常温のフライパンにチーズをできるだけ同じ厚さに広げて、れんこんを重ねるように並べる。中火で5分ほど焼き、返して、さらに2分ほど焼く。
- 3.食べやすい大きさに切り、器に盛り付けて、パセリをふる。

《ポイント》

チーズはじっくりカリカリになるまで待つ。火が強いと焦げてしまうので、じっくりじっくり

コヨット! スタッフ研修会 ワークショップ『KJ法』班ごとの集約

「コヨット!」は、2021年3月をもって一旦終了することになっており、日本生協連で取りまとめていただいていた「くらし・地域復興応援募金」も2020年3月31日で終了致しました。

これからは、これまでにいただいた募金を原資とした活動になりますが、2020年度は、コロナ禍の中で中止や規模縮小での活動を余儀なくされており、2021年3月31日以降にも繰越金が残っており、「くらし・地域復興応援募金」とは異なるルートでの募金も送金いただいていることから、2021年3月31日以降もしばらくは活動を継続していかざるを得ないかと考えています。

とは言え、2021年3月11日で、東日本・津波・原発事故大震災から丸10年が経過することになります。

10年間の振り返り

★企画活動内容について

- ・県外に避難できなかった家族にとってコヨットはありがたかった。
- ・線量の低い所で外遊び出来る機会を提供出来た。
- ・県外受け入れ企画も多く内容がよかった。
- ・お買い物キッチンの企画がとても良い。
- ・自分で作って食べる事を楽しんでた。
- ・季節ごとの果物狩りが良かった（ブドウ、さくらんぼ、苺など…）
- ・流しソーメンが楽しそうだった。
- ・夏休みの長期保養企画が良かった（体験や学び）。子どもだけで参加することで子どもの成長につながった。
- ・ねぶた祭が楽しかった。
- ・雪遊びでソリは寒さの中でも、とても楽しそうに笑顔があふれていた。
- ・他家族との触れ合いができた。
- ・保養以外のサポート（ほっこりママ会）があるのも良かった。



節目となる2021年、10年間のこれまでの活動を振り返り・これまでの支援への感謝・次代への継承を目的とした「つどい」開催目指して準備を始めたいと考え、スタッフの皆さんに、活動の振り返りをさせていただきました。

- ・親子単位でボール遊びや遊具を利用し笑顔があったこと。
- ・外で遊べなかった時期の外遊び企画は良かった。親も喜んでた。
- ・企画したが人が集まらず中止になった(マイナス意見)
- ・森遊びはお母さん達は苦手(マイナス意見)

★子ども達の笑顔と成長

- ・子ども達がのびのび遊べて良かった。
- ・前のめりになって走り回る子ども達ののびのびした姿。
- ・子ども達が元気に外遊びが出来て親子ともリフレッシュしていた◎
- ・みんな笑顔で楽しそうだった。
- ・子ども同士遊びの工夫をして教え合ったりしていた。
- ・雨の日でも遊び方を色々考えていた。
- ・子ども達の想像力がすごい(お買い物キッチンでの料理)◎

- ・始めは緊張していたが帰るころにはニコニコ笑顔でさよなら出来た◎
- ・遊び道具をゆずりあっていた。
- ・得意な子がうまく出来ない子に教えてあげたりしていた。
- ・好き嫌いがあった子どもがみんなと食べることにによりなんでも食べられるようになった。
- ・参加している子どもの成長が見れる(何度も参加している家族)
- ・なかなか出来ない体験がこのプロジェクトで出来るのが良い◎
- ・知らない子ども同士で仲良くなっていく。一緒に遊ぶ。
- ・お買い物キッチンで子ども達の自立心が芽生えた。
- ・最初は名前も言えなかった子ども達も2回目から家族紹介していた。
- ・外遊びが出来ない子が楽しく遊べるようになった。
- ・バスの中でゲームをしている子が増えた(マイナス意見)
- ・学生スタッフを占領してしまう子がいた(マイナス意見)



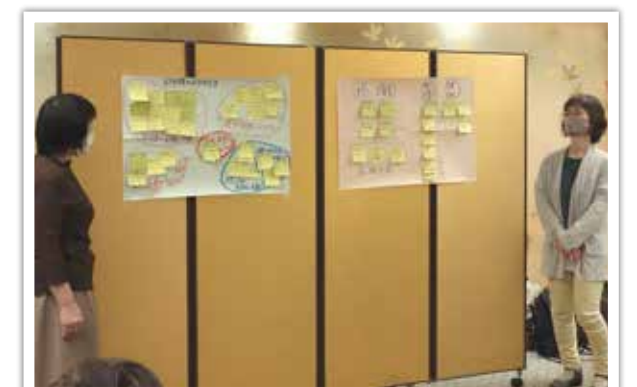
★親子の笑顔といやし

- ・親子の会話が外遊びで増えた。
- ・親子が離れて活動出来るようになった。
- ・激安ツアーと勘違いして参加している親子もいた(マイナス意見)
- ・親も子ども笑顔になっていた◎
- ・親のリフレッシュした姿を見れた。
- ・子ども達の笑顔、そして親と一緒に活動は親の気持ちにゆとりが生まれ、表情が良くなっていった。
- ・お父さんお母さんも一緒に遊んで楽しそうだった。
- ・観光ではなく放射能から逃げられる。
- ・「うちの子ども達は「コヨット!」で育ててもらったようなもんだ」との母親の言葉が支えに

- なった。
- ・お母さんから「ありがとう」と感謝された。
- ・5年前と今ではお母さん達のストレスの度合いが減っている。
- ・台風で自宅が大変なのに参加してくれた。
- ・一緒に遊ぶ親、傍感している親、それぞれの親の姿。
- ・自分はこんなに子どもに関わった事があるだろかと思うくらい、自分の子どもと一生懸命遊んでいる姿が多い。
- ・餅つきの時のお母さんの力強さ。お父さんも張り切っていた。子ども達の興味深々。
- ・濡れる事を想定して着替えを準備していた。
- ・子どもをスタッフに任せてしまう親もいた(マイナス意見)

★参加者同士のつながり・ふれあい交流!

- ・交流の場にもなり、親同士で悩みを相談や共感したり出来た。
- ・参加している親子が仲良くなりお付き合いが続いているようだ◎
- ・親同士のつながりが出来た。
- ・参加者同士が友達になり毎回楽しく過ごしている◎
- ・子ども保養活動時において参加者同士の交流が弱い(子ども同士、親同士)



各班の発表をするスタッフ

★スタッフとして

- ・コヨットスタッフは皆意識が高い人たちがかりだ。
- ・スタッフが初対面でも気にならなかった。
- ・笑顔のスタッフ（共立社の方々）素敵です。
- ・スタッフで参加して自分も初体験の事をやらせてもらう中で勉強になることが沢山あった。
- ・森スタッフとして雨の中での活動に困った。
- ・連れて行きたい所が沢山あるが天気に左右される。
- ・母親から相談されることがあった。
- ・お父さん、お母さん達ともっと話したかった◎
- ・親の不安、心配なこと等をゆっくり聞ければ良かったかな…。
- ・子ども達が望んでいるようにできたか？
- ・コヨットに参加することで私自身も癒しを与えてもらっていた。

★10年を通して

- ・大きな事故も問題もなく10年続けられてすごい。
- ・長期間のフォロー体制が良かった。
- ・未就学児対象で始まった保養が小学生企画も追加になり、子どもの成長に寄り添って企画内容を変化させている。
- ・子育てのスタイルが自分の時と違ってきていると感じる。
- ・森の参加者が決まってきた（マイナス意見）
- ・毎度のリピーターがいる。

これまでの支援への感謝の表現

- ・今までに参加してくれた子どもから感謝の気持ちを話してもらい、支援者へ届けたい。DVDにまとめて全国に送付。感謝の会の開催。
- ・参加者の声、気持ちを募集やアンケートで集め今の気持ち（親の今どう思っているのか。参加した子の生の声）伝える。

★感謝

- ・その時々に応じた物資の援助（スイカ、金魚）◎
- ・県外受け入れへの感謝。その地域のスタッフのおもてなしに感謝、感動しました◎
- ・子どもが興味を持つ企画を考える運営委員会がすごいと思う。
- ・全国に助けの手を差し出してくれる人が沢山いる事が分かった。
- ・私達一般スタッフを導いてくださった生協の方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。



各班の発表をするスタッフ



★要望

- ・「コヨット！」の存在を知らないから悩んでいる人に届かないのでは…もっとネットだけでなくお知らせを広げる。
- ・「コヨット！」の活動及び存在を知らない人が多い
- ・ネットや情報誌（フリーペーパー）に関心がないと分からない。
- ・広告にお金をかけて知らせればよかったかも。
- ・地域差があったかも（出発地の距離）
- ・「コヨット！」へ参加するということだけでその親子はあまり心配いらない。その他の福島の子ども達は…

★表現方法

- ・DVDを作成。
- ・子どもからの手紙（感謝）
- ・親から子供の成長した姿をみてもらう。
- ・写真いっぱいの報告書や実績報告書（累計）
- ・感謝状（つどいなどの場で）



各班の発表をするスタッフ

次の時代への継承について

- ・参加者の子どもを集めて感じたことを発信する
⇒高校生や大学生などこれからの時代を担っていく若い世代に、震災（災害）によって自由を奪われ、成長に不安を感じる親子に対し我々がしてきたプロジェクトを理解してもらい、今後同じような事態が起こった時の参考にしてもらう。リモートという形で多くの方に継承が可能な時代に。
- ・「コヨット！」の活動でのいろんな経験を伝える
- ・親の交流（子育て中）できる話せる場の提供
- ・参加した子供たちが成長してスタッフとして加わってくれと嬉しい。
- ・参加してくれた子ども達の中から一人でも次の時代にプロジェクトの様な事に参加してくれたらと思う。
- ・子どもが大きくなった時にすすんでボランティアに参加してくれる子になって欲しい。
- ・感謝の気持ちを伝えていってもらおう。
- ・各生協の方達が語り継ぐ。
- ・培ったネットワークの活用。
- ・放射線に悩む人に対して継続的なかわりをもつ取り組み。
- ・保養終了後も見守って行きたい。

★原発事故

- ・忘れられる福島
- ・原発事故が与えた影響
- ・親子に与えた影響
- ・気持ち、健康不安、いじめ
- ・安心安全な食べ物



2020年度福島の子ども保養プロジェクト 収支報告 (2020.4.1～2021.3.31)

お預かりしている支援金 (単位：円)	
科 目	金 額
2019年度「くらし・地域復興応援募金」	14,046,014
直接お預かりした支援金計	22,546,093
グッズ等売り上げ	506,060
預金の利息	593
これまでにお預かりしていた支援金	46,325,569
日本ユニセフ協会からお預かりした支援金	2,859,916
合計	86,284,245



2020 年度使わせていただいた支援金 (単位：円)	
科 目	金 額
事務局で使用した金額(人件費含む)	6,518,256
電話代や切手、送料など	118,423
バス代	3,696,760
宿泊代	4,012,190
体験代などの費用等	3,442,249
年次レポート	320,000
運営委員会やスタッフ研修費	649,183
保険料	171,150
振込等にかかった費用	30,884
コヨット!グッズ代等	373,275
お菓子代	298,961
おもちゃ代	186,978
ホームページ更新他	312,000
その他	1,619,816
使わせていただいた支援金の総額	21,750,125

継続してお預かりする支援金	63,858,988
日本ユニセフ協会からお預かりする支援金	675,132

※参加者からいただいている参加費については、バス代・宿泊代等で相殺しています。

2020 年度にお寄せいただいた「コヨット! 募金」

組 合 名	金 額
生活協同組合コープこうべ	6,659,409
生活協同組合コープみらい	4,930,099
京都生活協同組合	3,156,699
生活協同組合コープあいち	1,500,000
生活協同組合コープぐんま	1,031,861
市民生活協同組合ならコープ	1,012,130
とちぎコープ生活協同組合	876,362
福島県労働者共済生活協同組合	600,000
鳥取県生活協同組合	593,600
生活協同組合おかやまコープ	500,000
生活協同組合コープながの	489,380
トヨタ生活協同組合	471,807

組 合 名	金 額
東京南部生活協同組合	201,790
東都生活協同組合	200,000
生活協同組合コープみやざき	90,396
高知県学校生活協同組合	84,500
上田 友子(個人)	50,000
大阪よどがわ市民生活協同組合	32,722
北海道学校生活協同組合	28,656
富士フイルム生活協同組合	16,435
阿部 ツギ子(個人)	10,000
農林水産省職員生活協同組合	5,247
小西 健夫(個人)	5,000

合 計	22,546,093
-----	------------

※ 2021 年度の活動に使用します

支援をしてくださったみなさま

福島県外受入企画による支援 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

2020年

10/24～25 いばらきどきどき体験ツアー 第27回
いばらきコープ生活協同組合・協同組合ネットいばらき



いこいの村溜沼で釣り体験



陶芸手びねり体験(笠間工芸の丘にて)



いばらきコープ生活協同組合 鶴長理事長が参加者に自ら釣りの指導を...

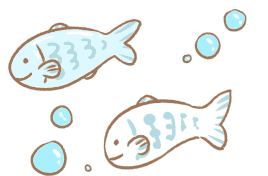


しめじ工場見学(鬼澤食菌センター)

商品でのご支援 (2020年度)



大阪府生活協同組合連合会様からたこ焼きの材料一式でのご支援をいただきました。親子で大阪たこ焼きを作りを行いました。大阪府連の皆様ありがとうございます。引き続きのご支援よろしくお願いいたします。



募金の受付口座

東北労働金庫 福島支店

普通預金 6400120

福島の子ども保養プロジェクト

協力団体

2020.3.31現在

日本生活協同組合連合会
公益財団法人日本ユニセフ協会
認定NPO法人 世界の子どもに
ワクチンを 日本委員会
株式会社 ポケモン

その他団体

日本労働組合総連合会福島県連合会
福島県労働福祉協議会
東北労働金庫福島県本部
こくみん共済coop福島推進本部
福島県農業協同組合中央会
福島県漁業協同組合連合会
福島県森林組合連合会
茨城県農業協同組合
新潟県労働金庫
帝国ホテル労働組合
福島県高齢者大集会 実行委員会
磐梯名湯リゾートボナリの森
協和交通株式会社
JTB東北 法人営業福島支店
福島交通観光株式会社
株式会社 SAGA DESIGN SEEDS
石川県立飯田高等学校
滋賀県立彦根東高等学校新聞部
平和の杜学園 むつみ幼稚園
北海道七飯町
北海道森町
政田農園(北海道森町)
トトロの里富原観光果樹園(北海道七飯町)
フラ ハーラウ キエレ レイ

生協関連

生活協同組合コープさっぽろ
北海道学校生活協同組合
生活協同組合コープあおもり
青森県生活協同組合連合会
青森県民生活協同組合
青森県庁消費生活協同組合
生活協同組合コープあきた
みやぎ生活協同組合
宮城県生活協同組合連合会
生活協同組合共立社
山形県生活協同組合連合会
山形県学校生活協同組合
いばらきコープ生活協同組合
生活協同組合パルシステム茨城 栃木

茨城県生活協同組合連合会
茨城県学校生活協同組合
とちぎコープ生活協同組合
生活協同組合コープぐんま
生活協同組合パルシステム千葉
千葉県生活協同組合連合会
生活協同組合コープみらい
コープデリ生活協同組合連合会
埼玉県生活協同組合連合会
東京都生活協同組合連合会
東都生活協同組合
北区・荒川区・足立区生協連絡会
農林水産省職員生活協同組合
生活協同組合・消費者住宅センター
東京西部保健生活協同組合
生活協同組合ユーコープ
生活協同組合うらがCO-OP
富士フイルム生活協同組合
神奈川県生活協同組合連合会
川崎医療生活協同組合
全日本海員生活協同組合
生活協同組合コープながの
長野県生活協同組合連合会
双葉生活協同組合
生活協同組合コープにいがた
生活協同組合コープクルコ
富山県生活協同組合連合会
富山県生活協同組合
生活協同組合CO-OPとやま
石川県学校生活協同組合
生活協同組合コープいしかわ
生活協同組合連合会 コープ北陸事業連合
福井県民生活協同組合
福井県生活協同組合連合会
生活協同組合コープあいち
トヨタ生活協同組合
みなと医療生活協同組合
生活協同組合コープぎふ
生活協同組合コープみえ
生活協同組合コープしが
滋賀県生活協同組合連合会
わかやま市民生活協同組合
京都生活協同組合
大阪いずみ市民生活協同組合
大阪よどがわ市民生活協同組合
生活協同組合おおさかパルコープ
大阪府生活協同組合連合会

奈良県生活協同組合連合会
市民生活協同組合ならコープ
生活協同組合コープこうべ
生活協同組合おかやまコープ
日立造船因島生活協同組合
三井造船生活協同組合
生活協同組合ひろしま
生活協同組合連合会 コープ中国四国事業連合
鳥取県生活協同組合
生活協同組合しまね
生活協同組合コープやまぐち
山口県生活協同組合連合会
生活協同組合コープかがわ
香川県学校生活協同組合
香川県庁消費生活協同組合
生活協同組合とくしま生協
愛媛県生活協同組合連合会
生活協同組合コープえひめ
こうち生活協同組合
高知県学校生活協同組合
高知県生活協同組合連合会
生活協同組合連合会 コープ九州事業連合
エフコープ生活協同組合
福岡県学校生活協同組合
コープさが生活協同組合
生活協同組合ララコープ
長崎県生活協同組合連合会
福祉生活協同組合いきいきコープ
生活協同組合コープおおいた
大分県学校生活協同組合
生活協同組合コープみやざき
生活協同組合くまもと
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープおきなわ
日本生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
全国学校用品株式会社
株式会社コープクリーン
コープ情報システム株式会社
日生協企業年金基金
日生協健康保険組合
日生協本部健康保険委員会
れいんぼーくらぶ
公益財団法人生協総合研究所
国際協同組合同盟(ICA)
協同組合ネットいばらき
全国消費者団体連絡会

福島の子ども保養プロジェクト紹介用ボックスを貸し出いたします

資金難を少しでも克服するために、ひとつは、コヨット!の理解を深めて、募金活動が継続できるように、コヨット!の紹介用ボックスの貸し出しと「グッズを買って応援しよう!」という呼びかけを日本生協連を通じて行っています。

ボックス内容

- 内容紹介タペストリー (W60×H85cm) 4枚
- 参加した子どもからのメッセージ 2枚
- オリジナル募金箱 2個

スーツケースにて発送します。送料については借り側負担になります。
貸出お申込みは、FAXお申込み用紙またはお申込みフォームで受付しております。

グッズを買って応援しよう!

オリジナルグッズ(絆創膏、ピンバッジ、クリアファイル、ボールペン、マグネット、トートバッグ等)を販売いたしております、イベント等でご利用下さい。売上金はすべてコヨット!の募金になります。

クリアファイル、ボールペン	各@100円
抗菌マスクケース(1個)	@100円
ピンバッジ(1個)	各@200円
トートバッグ(W36×H37cm)	@500円
サーモボトル(360ml)	@2,000円

コヨット!&NPO法人ルワンダの教育を考える会コラボ!
「ルワンダCOFFEE」 @100円

コーヒーの売り上げは、コヨット!の活動とルワンダの貧困児童の教育支援に使われます。



オンラインで福島の今と保養プロジェクトについて報告しました。

オンラインで、東日本大震災から丸10年経過した福島の今と福島の子ども保養プロジェクトについて報告しました。

2021年 2月 9日 長崎県 生活協同組合ララコープ様

2021年 2月22日 岡山県 生活協同組合おかやまコープ様

2021年 2月22日 埼玉県 生活協同組合コープみらい様

新型コロナウイルス感染症が終息するまでの間は、オンラインとなりますが、福島の現状並びに福島の子ども保養プロジェクトについて報告させていただきます。事務局まで、何なりとお申し出ください。

また、市民生活協同組合ならコープ様の「3.11東日本大震災を忘れない ～ならコープ災害支援活動の歩み～」の動画において、コヨット!からのメッセージの協力をいたしました。

ご希望の団体は、事務局まで、お申し出ください。



福島と長崎でオンライン交流

ボランティアスタッフ支援

生活協同組合共立社



「コヨット!」とは、
子ども保養プロジェクトの
こどもの👁️ ほよの👁️
プロジェクトの👁️
保養に「来よう!」と誘う意味も
含まれています。

発行元

福島の子ども保養プロジェクト（福島県生活協同組合連合会内）

〒960-8105 福島県福島市仲間町4-8 ラコパふくしま4階

TEL 024-522-5334 FAX 024-522-2295

コヨット!公式ウェブサイト <http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/>